

「2020年基準消費者物価指数の中間年（2023年）における見直し（案）」に対して提出された意見及び総務省の考え方
（令和4年10月7日～同年11月7日意見募集）

No.	提出者	該当箇所	提出された意見	総務省の考え方	提出意見を踏まえた案の修正の有無
1	個人	別紙1 1頁 2 見直し内容	東京都区部の結果では指数と変化率は小数第1位までの表章となっていることから、公表された指数から計算した変化率と、公表された変化率の値が一致しないほか、品目別に計算した寄与度の合計が、総合指数等の集計された項目の値と一致せず、問題がある。物価への注目度が高まるなか、いち早く動向を把握できる東京都区部の結果の重要性も増しており、こうした不整合は解消すべき。全国では参考値として小数第3位までの指数を開示しており、非常に有用。中間年見直しを機に、東京都区部でも全国と同様に、参考値として小数第3位までの指数の開示を希望する。	総務省統計局では、翌月公表する「全国の結果」に加え、「東京都区部（中旬速報値）の結果」を原則として当月に公表し、ユーザーの利便性向上を図っているところです。限られたリソースの中、この月2回の公表頻度を維持するため、東京都区部の公表時には特に重要なものに絞って統計表を作成しております。 物価への注目度が高まっている中、速報値としての東京都区部の結果の重要性が高まっていることは認識していますが、今回の中間年見直しにおいては、国際機関からの要望があったことも踏まえ、国際比較可能性の向上の観点から「COICOP 分類指数」の月次結果の統計表追加を優先しました。「小数第3位までの指数」などの参考値の統計表を充実することについては、次期基準改定において公表内容全体を再整理する中で改めて検討してまいります。	無
2	個人	別紙1 1頁 2 見直し内容	消費者教育の専門家やいわゆる家庭科教育の専門家に確認したのか伺い度。	家計や物価について専門的な知識を持っている有識者やエコノミストが参加する研究会等の意見を踏まえて、見直し案を作成しております。また、この度の意見募集を通じて幅広く御意見を伺っております。	無
3	無記名	1頁 3 適用時期 参考2 2020年基準ウエイトの確認（固定基準指数と連鎖基準指数の比較） 3頁	3ページ 「「消費者物価指数2020年基準改定計画（抜粋）」（令和2年12月4日公表、令和3年4月2日一部改定）」 こういう記載を見ると頭がクラクラする。 2020年の計画を令和2年12月4日に公表したが、令和3年4月2日に一部を改定したという意味か？ 1ページ 2020年の計画を2025年を待たずに、中間年である令和5年に改訂するなら、「令和5年(2023年)」の記載は最初から「2023年」とだけ記載してほしい。 2ページのグラフでは和暦は使われていないのだから、他の箇所も和暦は使わなくていいのではないか？	頂いた御意見のとおり「消費者物価指数2020年基準改定計画」は、令和2年12月4日に公表した後、令和3年4月2日に一部改定（ウエイト参照年の変更及び参考指数の公表時期の前倒し）を行いました。 西暦・和暦の表記につきましては、文章やグラフごとの一定のルールに基づき記載したところです。御意見は今後の参考とさせていただきます。	無

○提出意見数：3件